

令和2年度厚生労働省難治性疾患等政策研究事業
「免疫アレルギー疾患対策に関する研究基盤の構築」

(主任研究者：玉利真由美)

第1回班会議

日時：2021年2月10日（水曜日）18:30～19:30

場所：Zoomにて開催

議事次第

1. ご挨拶

伊藤 靖典 厚生労働省 健康局 がん・疾病対策課 課長補佐

2. 報告事項

- 1) 2020 WAO JSA 留学のすゝめ
- 2) NDB データベースを活用した免疫アレルギー疫学調査
- 3) 免疫アレルギー分野インパクト解析
- 4) Nature Café on Type 2 Immunity : 2021.1.28

3. 検討事項

5) レポートのお願い

これまでの3年間の日本を含めた世界の動向

これからの7年に日本で特に取り組むべき課題

6) 2021年度より3年間の研究計画

参考資料1	2020 WAO JSA 留学のすゝめ
参考資料2	NDB データベースを活用した免疫アレルギー疫学調査
参考資料3	免疫アレルギー分野インパクト解析
参考資料4	Nature Café on Type 2 Immunity
参考資料5	レポートについて
参考資料6	2021年度より3年間の研究計画

令和2年度厚生労働省難治性疾患等政策研究事業
「免疫アレルギー疾患対策に関する研究基盤の構築」

(主任研究者：玉利真由美)

2021.2.10 班会議 出席者名簿

玉利真由美	東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター 分子遺伝学研究部 教授
天谷雅行	慶應義塾大学医学部 皮膚科学教室 教授
海老澤元宏	国立病院機構 相模原病院 臨床研究センター 臨床研究センター長
藤枝重治	福井大学 医学部 感覚運動医学講座・耳鼻咽喉科頭頸部外 科学 教授
松本健治	国立研究開発法人 国立成育医療研究センター 免疫アレルギー・感染研究部 部長
足立剛也	京都府立医科大学 大学院 医療レギュラトリーサイエンス学教室 特任講師
小川靖	名古屋大学 医学部附属病院 先端医療開発部 講師
猪俣武範	順天堂大学医学部 眼科学教室 准教授
貝沼圭吾	国立病院機構 三重病院 臨床研究部 研究員
神尾敬子	九州大学病院 光学医療診療部 医員
倉島洋介	千葉大学大学院医学研究院 イノベーション治療学研究講座 イノベーション医学研究領域 准教授
坂下雅文	福井大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科/医学研究支援センター 講師
佐藤さくら	国立病院機構 相模原病院 臨床研究センター 病因・病態研究室 室長
森田英明	国立研究開発法人 国立成育医療研究センター 免疫アレルギー・感染研究部 室長
中島沙恵子	京都大学 大学院医学研究科皮膚科学 講師
二村昌樹	国立病院機構 名古屋医療センター 小児科 医長
正木克宜	慶應義塾大学医学部 内科学（呼吸器）助教
オブザーバー	
伊藤靖典	厚生労働省 健康局 がん・疾病対策課 課長補佐
富田康裕	国立研究開発法人 日本医療研究開発機構 (AMED) 戦略研究部 難病研究課

令和2年度 厚生労働省難治性疾患等政策研究事業
「免疫アレルギー疾患対策に関する研究基盤の構築」研究班名簿

研究代表者	
玉利真由美	東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター 分子遺伝学研究部 教授
研究分担者	
天谷雅行	慶應義塾大学医学部 皮膚科学教室 教授
海老澤元宏	国立病院機構 相模原病院 臨床研究センター 臨床研究センター長
藤枝重治	福井大学 医学部 感覚運動医学講座・耳鼻咽喉科頭頸部外科学 教授
松本健治	国立研究開発法人 国立成育医療研究センター 免疫アレルギー・感染研究部 部長
足立剛也	京都府立医科大学 大学院 医療レギュラトリーサイエンス学教室 特任講師
研究協力者	
小川靖	名古屋大学 医学部附属病院 先端医療開発部 講師
猪俣武範	順天堂大学医学部眼科学教室 准教授
貝沼圭吾	国立病院機構 三重病院臨床研究部 研究員
神尾敬子	九州大学病院 光学医療診療部 医員
倉島洋介	千葉大学大学院医学研究院 イノベーション治療学研究講座 イノベーション医学研究領域 准教授
坂下雅文	福井大学医学部附属病院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科/医学研究支援センター 講師
佐藤さくら	国立病院機構 相模原病院 臨床研究センター 病因・病態研究室 室長
森田英明	国立研究開発法人 国立成育医療研究センター 免疫アレルギー・感染研究部 室長
中島沙恵子	京都大学 大学院医学研究科皮膚科学 講師
二村昌樹	国立病院機構 名古屋医療センター 小児科 医長
正木克宜	慶應義塾大学医学部 内科学（呼吸器）助教
福島敦樹	国立大学法人高知大学医学部眼科学講座 教授
野田龍也	奈良県立医科大学 公衆衛生学講座 准教授

免疫アレルギー疾患研究 10 ヶ年戦略に関連する論文について

1) 免疫アレルギー疾患研究 10 ヶ年戦略の総説

日本アレルギー学会 学会誌「アレルギー」69 巻 1 号に掲載

免疫アレルギー疾患研究 10 年戦略 2030 : 「見える化」による安心社会の醸成

足立 剛也, 貝沼 圭吾, 浅野 浩一郎, 天谷 雅行, 新井 洋由, 石井 健, 伊藤 浩明, 内尾 英一, 海老澤 元宏, 岡野 光博, 椛島 健治, 近藤 健二, 今野 哲, 佐伯 秀久, 園部 まり子, 長尾 みづほ, 檜澤 伸之, 福島 敦樹, 藤枝 重治, 松本 健治, 森田 英明, 山本 一彦, 吉本 明美, 玉利 真由美

2020 年 69 巻 1 号 p. 23-33

2) 英文雑誌である「Allergology International」に Secondary Publication として掲載

Strategic Outlook toward 2030: Japan's research for allergy and immunology - Secondary publication.

Adachi T, Kainuma K, Asano K, Amagai M, Arai H, Ishii KJ, Ito K, Uchio E, Ebisawa M, Okano M, Kabashima K, Kondo K, Konno S, Saeki H, Sonobe M, Nagao M, Hizawa N, Fukushima A, Fujieda S, Matsumoto K, Morita H, Yamamoto K, Yoshimoto A, Tamari M.

Allergol Int. 2020 Oct;69(4):561-570. PMID: 32600925

参考資料 1 2020 WAO JSA 留学のすゝめ

JSA/WAO Joint Congress 2020 (第 69 回日本アレルギー学会学術大会)

会長 海老澤元宏

シンポジウムを開催 207 名の参加登録

タイトル：ENGAGE-TF X 留学のすゝめ 2020 in World Allergy Congress

免疫アレルギー研究の次世代に向けて

代表者：足立剛也 (ENGAGE-TF/UJA/ケイロン・イニシアチブ)

オーガナイザー：

猪俣武範 (順天堂大学)、貝沼圭吾 (国立病院機構三重病院)、神尾敬子 (九州大学)、倉島洋介 (千葉大学/東京大学医科学研究所)、坂下雅文 (福井大学)、佐藤さくら (国立病院機構相模原病院)、玉利真由美 (東京慈恵会医科大学)、中島沙恵子 (京都大学)、福島敦樹 (高知大学)、二村昌樹 (国立病院機構名古屋医療センター)、正木克宜 (慶應義塾大学)、森田英明 (国立成育医療研究センター)、本間耕平 (UJA)、赤木紀之 (UJA)

日時： 2020 年 9 月 18 日 16:30-18:00 (終了後交流会～20:00)

場所： zoom によるオンライン開催

主催： 免疫アレルギー疾患研究 10 年戦略次世代タスクフォース (ENGAGE-TF)

協力： 日本アレルギー学会、日本耳鼻咽喉科学会、日本皮膚科学会、日本小児アレルギー学会、日本呼吸器学会、日本免疫学会、日本眼科学会、日本医療研究開発機構 (AMED)、海外日本人研究者ネットワーク (UJA)、NPO 法人ケイロン・イニシアチブ

座長： 中島沙恵子 (京都大学皮膚科/ENGAGE-TF)、
赤木紀之 (福岡工業大学/UJA)

<プログラム>

16:30 Opening Remarks

学会長ビデオメッセージ 海老澤元宏 (国立病院機構相模原病院)

16:35 留学を志すあなたに送る「留学のすゝめ」 越田航平 (UJA)

16:40 留学の生の声を聞く

(留学先の研究環境、苦労したこと、留学後のキャリアパス)

溜雅人 (アメリカ・ワシントン大学留学中)

石井由美子 (カナダ・マギール大学留学)

鈴木正宣 (オーストラリア・アデレード大学留学)

高橋まり子 (アメリカ・ラホヤ研究所留学中)

三田村康貴 (スイス・チューリッヒ大学 SIAF 留学中)

大内亜由美 (アメリカ・スクリプス研究所留学中)

17:30 留学情報、ライブ投票、パネルディスカッション

モデレーター: 足立 剛也 (ENGAGE-TF/UJA/ケイロン・イニシアチブ)

17:55 Closing Remarks

参考資料 2 NDB データベースを活用した免疫アレルギー疫学調査

NDB (National Database) レセプト情報・特定健診等情報データベースによるアレルギー疾患の罹患数実態調査、医薬品の実態調査、検査の実態調査
慈恵大学と三菱総研の委託研究契約
データを切り出すための疾患定義作成→データの切り出しと粗集計→解析

2020.10.29 19:00～ ENGAGE-TF Web 会議

レセプト情報・特定健診等情報データベース (NDB) 研究打ち合わせ

NDB の総論、疾患定義に向けての注意点について

奈良医大 公衆衛生学 准教授 野田龍也先生

現在、免疫アレルギー疾患の NDB 解析は 2013 年 4 月より 2019 年 3 月まで 6 年分のデータが解析可能。2019 年 4 月以降はもう少し時間がかかる。NDB は行政情報であり、データの「利用」と「結果の公表」に行政の許可が必要。研究向けのデータとは（法的）性質が根本的に異なる、等の説明があった。

2021 年度の対象疾患、コード別、薬剤別担当者は下記のとおり
共通

医薬品：抗アレルギー剤（貝沼他）

気管支喘息

傷病名：貝沼、医療行為：貝沼、医薬品：ICS（二村）ICS+LABA（佐藤）LAMA（神尾）LABA+LAMA（神尾）ロイコトリエン（神尾）SABA（正木）経口ステロイド（正木）点滴ステロイド（正木）

アトピー性皮膚炎

傷病名：貝沼、医療行為：貝沼、医薬品：strongest（足立・宮川）very strong（足立・宮川）strong（佐藤）mild（二村）weak（中島）内服シクロスポリン（中島）外用タクロリムス（森田）保湿剤（森田）

アレルギー性結膜炎

傷病名：猪俣、医療行為：猪俣、医薬品：点眼ステロイド（赤崎）点眼抗アレルギー（赤崎）点眼免疫抑制剤（赤崎）

NDB を用いたアレルギー疾患の医療実態把握

-アドレナリン自己注射製剤の処方実態- について論文を執筆中
年齢階級別エピペン処方、男女比、都道府県別データ等

参考資料 3 免疫アレルギー分野インパクト解析

報告書を参照

参考資料 4 Nature Café : Type 2 immunity: challenges and opportunities
28 January 2021 (Time listed in JST)

- We had a total of 661 registrations and 418 live attendees during the event.
- Average viewing time for attendees was 1 hr. 32 minutes, which is a great success for an event that occurred so early in many time zones.
- 35% of attendees joined us from Japan, but we had a very global attendee group as a whole.

15:30 – 16:00 All presenters/moderators/chairs login to StreamGo

16:00 – 16:05 Welcome Remarks

Ken Ishii, IMSUT, The University of Tokyo

Session chairs: Cezmi Akdis & Toshinori Nakayama

16:05 – 16:20 Strategic Outlook toward 2030: Japan's research for allergy and immunology

Takeya Adachi, UJA/Kyoto Prefectural University of Medicine

16:20 – 16:35 DCs and asthma

Bart Lambrecht, ErasmusMC, UGent

16:35 – 16:50 Neutrophils/NETosis, viral aggravation of type II immunity

Thomas Marichal, Liege University

16:50 – 17:00 Break

Session chairs: Cevayir Coban & Hiroshi Kiyono

17:00 – 17:15 Mechanisms of immune tolerance to allergens; Role of B regulatory cells

Mubeccel Akdis, Swiss Institute of Allergy and Asthma Research

17:15 – 17:30 Epigenetics, microbiota, and T cell differentiation

Hiroko Nakatsukasa, Keio University School of Medicine

17:30 – 17:45 Nucleic acid-based immune-prophylaxis against viral infection

Kouji Kobiyama, IMSUT, The University of Tokyo

17:45 – 18:15 Discussion and Q&A

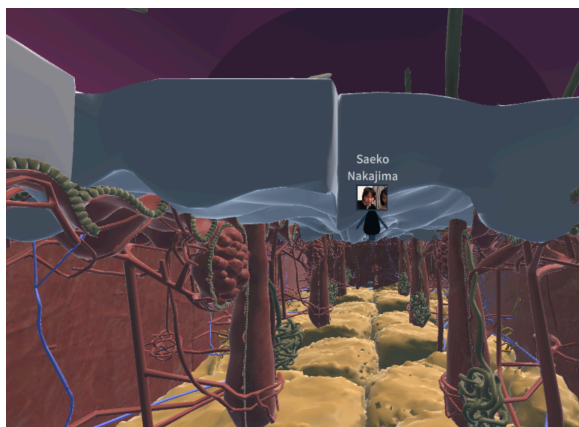
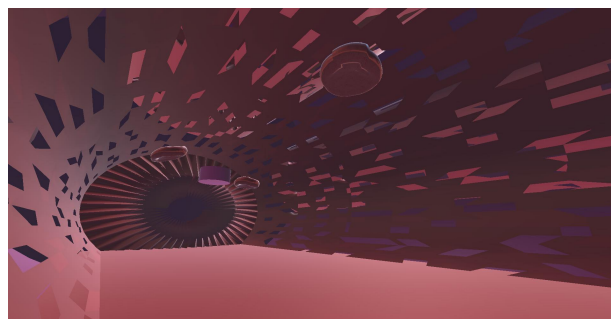
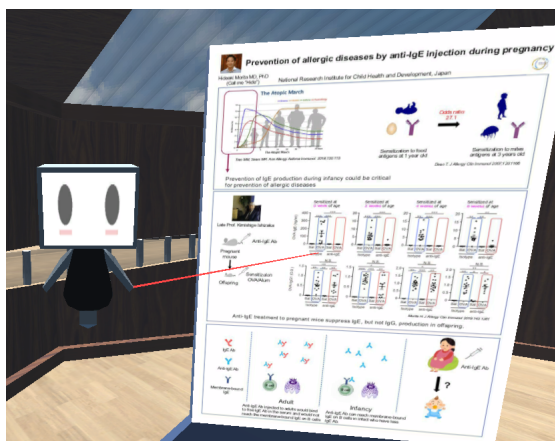
Zoltan Feheravi, Nature Immunology

18:15 – 18:20 Closing remarks

18:20 – 18:30 Break

18:30 – 19:30 Cross-Reality (XR) social gathering with poster sessions

ENGAGE-TF より森田英明、佐藤さくら、猪俣武範、倉島洋介、正木克宜、坂下雅文、中島沙恵子 XR会場の中でポスター発表を行った



参考資料5 レポートについて

研究10か年戦略の見直しは2024年度に予定
研究戦略の評価に資する情報収集の必要性
レポート執筆をお願いいたします

各研究分担者にそれぞれの分野を中心に

- 1) これまでの3年間の日本を含めた世界の動向
 - 2) これからの7年に日本で特に取り組むべき課題
- についてA4で1~2枚(特に長さの制限なし)2021.3月末の締切を予定
報告書としてまとめて公表

領域/キーワード

玉利真由美	ゲノム、オミックス解析
天谷雅行	皮膚科
藤枝重治	耳鼻咽喉科
松本健治	免疫アレルギー、疫学研究
海老澤元宏	食物アレルギー、国際連携
足立剛也	HFSP、海外日本人研究者ネットワーク、 国際連携・異分野融合、若手研究者協働
貝沼圭吾	10か年戦略とNDB
小川靖	AMED免疫アレルギー分野、インパクト解析
森田英明	ヨーロッパアレルギー学会 中心拠点病院
佐藤さくら	中心拠点病院 小児食物アレルギー
二村昌樹	中心拠点病院、小児アトピー性皮膚炎
猪俣武範	眼科、PPI、App
正木克宜	呼吸器内科、成人食物アレルギー、App
神尾敬子	呼吸器内科、COPD、多様性
倉島洋介	免疫アレルギー基礎研究、 (リバーズ)トランスレーショナルリサーチ
中島沙恵子	皮膚科、microbiome、多様性
坂下雅文	耳鼻咽喉科、VR

参考資料 6 2021 年度より 3 年間の研究計画

研究計画書より抜粋

2021~2023 年度 厚生労働行政推進調査事業費補助金

免疫・アレルギー疾患政策研究事業

研究課題名：免疫アレルギー疾患対策に関する研究基盤及び評価基盤の構築

研究代表者

森田英明 国立研究開発法人 国立成育医療研究センター
免疫アレルギー・感染研究部 室長

研究分担者

玉利真由美 東京慈恵会医科大学 総合医科学研究センター
分子遺伝学研究部 教授

足立剛也 京都府立医科大学 大学院
医療レギュラトリーサイエンス学教室 特任講師

天谷雅行 慶應義塾大学 医学部 教授

藤枝重治 福井大学 医学部
感覚運動医学講座・耳鼻咽喉科頭頸部外科学 教授

松本健治 国立研究開発法人 国立成育医療研究センター
免疫アレルギー・感染研究部 部長

海老澤元宏 国立病院機構 相模原病院 臨床研究センター
臨床研究センター長

中山俊憲 千葉大学 大学院医学研究院 免疫発生学 教授

貝沼圭吾 国立病院機構 三重病院臨床研究部 研究員

中島沙恵子 京都大学 大学院医学研究科皮膚科学 講師

神尾敬子 九州大学病院 光学医療診療部 医員

倉島洋介 千葉大学大学院医学研究院 イノベーション医学 准教授

二村昌樹 国立病院機構名古屋医療センター 小児科 医長

猪俣武範 順天堂大学 医学部眼科学講座 准教授

坂下雅文 福井大学医学部附属病院
耳鼻咽喉科・頭頸部外科/医学研究支援センター 講師

正木克宜 慶應義塾大学医学部 内科学（呼吸器）助教

福田憲 高知大学医学部 眼科学講座 准教授

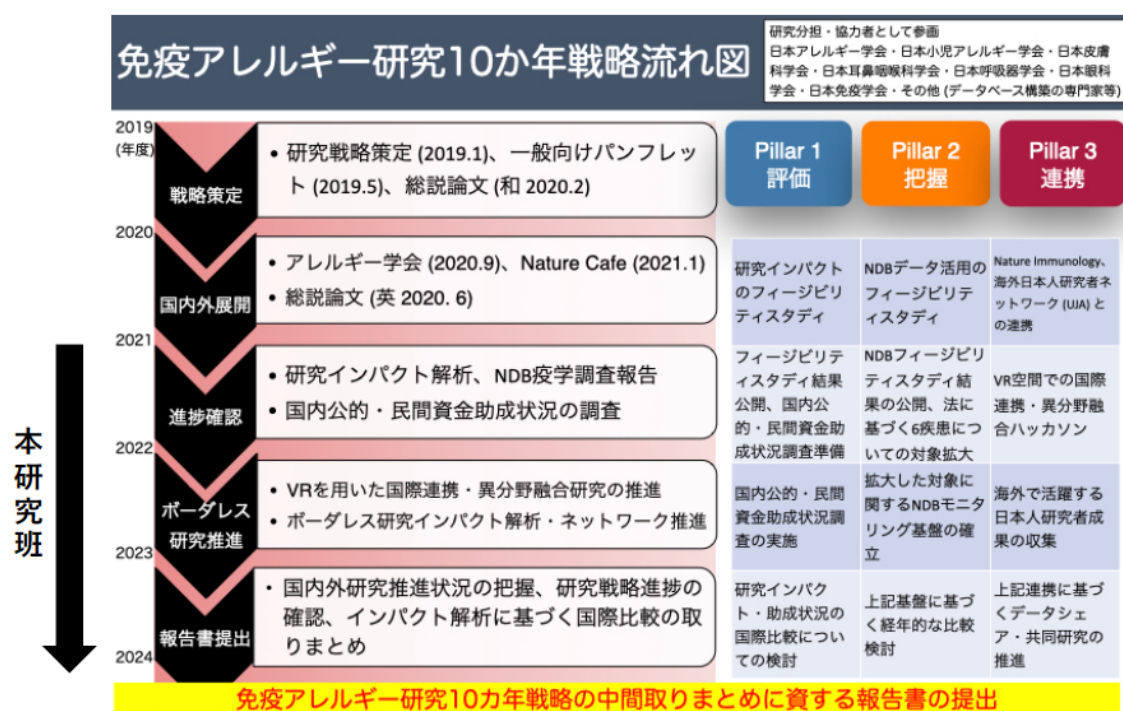
佐藤さくら 国立病院機構 相模原病院 臨床研究センター
病因・病態研究室長

研究協力者

小川靖 名古屋大学 医学部附属病院 先端医療開発部 講師

野田龍也 奈良県立医科大学 公衆衛生学講座 准教授

研究の流れ



1. 我が国における免疫アレルギー研究分野の進捗評価に資する調査研究

免疫アレルギー疾患研究10か年戦略における準備状況及び進捗状況を解析し評価する。具体的には、AMEDや厚生労働科研等の公的研究費、及びその他財団等の研究助成の公募状況を経年的に解析し、3つの戦略別に公募状況を確認する。また、日本学術振興会、JSTが所管する事業（戦略的創造研究推進事業等）との連携のもと、研究成果のインパクト解析を行い、3つの戦略別に進捗状況を確認する。加えて、国際情勢の確認を同時に進めることにより、我が国の研究状況の世界における立ち位置についても明らかにする。検討項目としては、研究助成金や研究開発戦略目標などのインプット、論文成果の量、質、長期的投資（厚み）、特許、社会/広報活動などのアウトプットに関する情報等があり、研究戦略に関連した自然言語・キーワード解析の手法を用いて、免疫アレルギー研究分野の強み・弱み・可能性を明確にすることを目指す。その上で、各戦略における効率的な支援のあり方や、研究推進するために必要な体制や仕組みに関する検討を重ね、10か年戦略の中間評価に向けた取り組みを行う。

2. 医療の現状及び経年的変化の把握するための研究基盤の構築

レセプト情報・特定検診等情報データベース（NDB）を活用し、免疫アレルギー疾患の罹患者数、診療状況、経年的変化の把握を試みる。アナフィラキシーシ

ヨック関連治療に関する罹患者数、診療状況をモニタリングする基盤を確立したが、他疾患（気管支喘息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎）に関しても、NDBによるモニタリング基盤を確立する。

3. 異分野連携、産官学民連携及び国際的な研究開発を進められる仕組み作り

先制的医療の実現を目指すための、免疫アレルギー疾患の本態解明、研究成果に基づいた安心できる社会の構築、ライフステージ等の特性に基づく治療法/予防法の開発には、免疫アレルギー疾患に関与する複数の学会の連携のみならず、産官学民連携及び国際連携が必須である。

学会間連携においては、学会を跨いだ Task Force の形成や検討会の開催を通して、複数の分野で共通のアンメットニーズの検討、臓器間/異分野融合型の研究開発の検討を行い、免疫アレルギー疾患の垂直的課題（経年的な課題）、および横断的課題（複数臓器に跨る課題）の解決に向けた体制作りを行う。

また、コロナ禍において物理的・地理的・心理的制約がある中、信頼を持ってイノベーションを進められるようバーチャル・リアリティ（VR）を用いたプラットフォームの活用を推進し、イベント等を通して、積極的に産官学民の人的交流、知的交流を推進し、連携強化を行う。また継続的な次世代の人材育成と、国際的な人材育成を目的として海外研究留学の推進、及び海外で活躍する日本人研究者成果の収集を行っていく。さらに、次世代への研究基盤の橋渡しのために、拠点病院を中心としたサンプル及び臨床情報の収集、データシェアリング等の検討を進める。